

有機農業の取組拡大に向けた 各地の取組事例集

ビジネス実践拠点づくり編

令和3年度有機農産物安定供給体制構築事業(有機農業推進総合対策)のうち
オーガニックビジネス実践拠点づくり事業



令和5年2月
農産局農業環境対策課

農林水産省

日本の有機農業の取組拡大に向けて

- 我が国の有機食品市場は拡大しており、有機農業の取組面積も拡大しています。
- 農林水産省では、2030年に有機農業の取組面積を6.3万ha、更に2050年には、有機農業の取組を全耕地面積の25%（100万ha）とすることを目指し、有機農業に係る人材育成、産地づくり、販売機会の多様化、消費者の理解の増進、技術開発・調査等を推進しています。

日本の有機農業の取組面積

推計年度	2009年	2020年
日本全国の有機農業の取組面積推計値(ha)	16.3千ha	25.2千ha

約5割拡大

※ 有機JAS認証を取得せずに有機農業に取り組んでいる農地面積を含む。

日本の有機食品市場規模

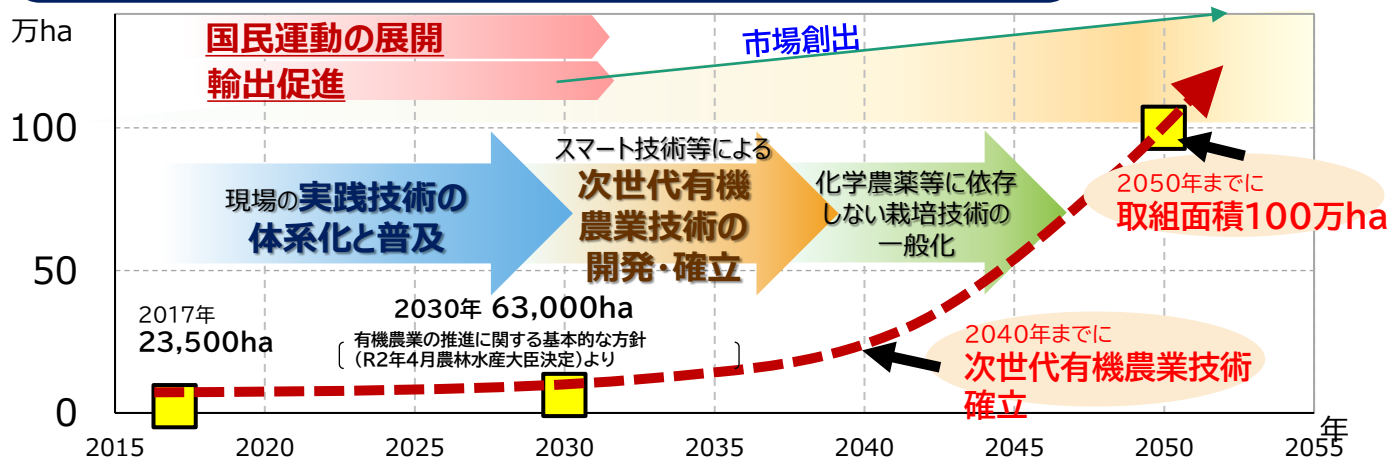
推計年度	2009年	2017年
日本全国の有機食品市場規模推計値(円)	1,300億円	1,850億円

※ 消費者アンケートによる推計

約4割拡大

有機農業の取組拡大の方向

有機農業の取組拡大（みどりの食料システム戦略（令和3年5月策定））



● 2030年の生産および消費の目標

有機農業の取組面積	23.5千ha(2017)	→	63千ha(2030)
有機農業者数	11.8千人(2009)	→	36千人(2030)
有機食品の国産シェア	60%(2017)	→	84%(2030)
有機食品を週1回以上利用する者の割合	17.5%(2017)	→	25%(2030)

推進に関する施策

➤ 人材育成：

- 就農相談、共同利用施設整備、指導員の育成・現地指導等

➤ 販売機会の多様化：

- 物流の合理化、加工需要の拡大、有機認証取得時の負担軽減等

➤ 技術開発・調査：

- 雑草対策、育種等、地域に適した技術体系の確立、各種調査の実施とわかりやすい情報発信等

➤ 産地づくり：

- 拠点の育成、地方公共団体のネットワーク構築等

➤ 消費者の理解の増進：

- 食育等との連携、小売事業者等と連携した国産需要喚起等

有機農業の面的拡大と有機農業により生産された農産物の安定的な供給体制を構築するため、実需ニーズも踏まえたオーガニックビジネスの拠点的な産地づくりに向け、技術研修会の開催、販路確保や生産・出荷拡大に必要な取組、農業者等と実需者とのマッチング、産地や自治体間の連携を促す取組を支援する事業

1. オーガニックビジネス実践拠点づくり事業

補助率：定額、1/2
事業実施主体：協議会等

- ① 栽培や経営に関する技術研修会の開催、産地への実需者の招へい等を含む新たな販路確保に向けた取組、新規参入者向け研修場の設置の取組等を支援。
- ② 有機農業への新規参入者等に対し、熟練有機農業者が行う現地指導の取組を支援。

オーガニックビジネス実践拠点づくり事業



全国に実践拠点をづくり有機の生産力・供給力をアップ！

令和3年度オーガニックビジネス実践拠点づくり事業 実施地区一覧

【販路確保型】

- 1 かわにし有機農業推進協議会
- 2 南陽市有機農業推進協議会
- 3 もがみオーガニックビレッジ協議会
- 4 SOSA Organic community **New**
- 5 千葉県有機農業推進協議会
- 6 小田原有機の里づくり協議会
- 7 さがみサステナブルコミュニティ **New**
- 8 やまなし有機農業連絡会議生産・利用拡大プロジェクトチーム
- 9 とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会
- 10 なかのと有機栽培研究会 **New**
- 11 知多の恵み
- 12 名古屋オーガニックアクション協議会
- 13 自然派京都有機農業推進協議会 **New**
- 14 茨木オーガニック農業推進協議会
- 15 神戸有機農業者CSA推進協議会
- 16 かしはらオーガニック **New**
- 17 奈良県中央卸売市場オーガニック流通推進協議会 **New**
- 18 那賀地方有機農業推進協議会
- 19 さぬきオーガニック
- 20 高知オーガニック
- 21 高知オーガニック・エコ農業推進協議会 **New**

- 22 Organic山都 **New**
- 23 宮崎県有機農業連絡協議会
- 24 かごしま有機農業推進協議会



【供給拡大型】

実需ニーズ対応タイプ

- 1 北海道有機農業推進協議会 **New**

生産主導タイプ

- 2 株式会社いかす

実施地区における令和3年度の状況

【販路確保型】 有機農産物等の一定の需要の確保を図ることにより、有機農業への新規就農者及び転換者をより多く受け入れられる実践拠点を育成することを目指す。

	有機農業者数(人)	有機JAS認証者数(人)	有機農業面積(ha)
1 かわにし有機農業推進協議会			+0.95
2 南陽市有機農業推進協議会	+2		+1.6
3 もがみオーガニックビレッジ協議会			+1.2
4 SOSA Organic community			+0.5
5 千葉県有機農業推進協議会	+8	+1	
6 小田原有機の里づくり協議会			+1
7 さがみサステナブルコミュニティ			+0.5
8 やまなし有機農業連絡会議生産・利用拡大プロジェクトチーム	+1		+2.6
9 とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会	+7		+9
10 なかのと有機栽培研究会	+4		
11 知多の恵み	+2		+1.1
12 名古屋オーガニックアクション協議会	+1		+0.4
13 自然派京都有機農業推進協議会	+1	+1	+0.72
14 茨木オーガニック農業推進協議会			+0.24
15 神戸有機農業者CSA推進協議会	+3	+1	+1.5
16 かしはらオーガニック	+2	+1	+0.53
17 奈良県中央卸売市場オーガニック流通推進協議会	+1		+0.1
18 那賀地方有機農業推進協議会	+2		+0.8
19 さぬきオーガニック	+1		+2.91
20 高知オーガニック	+1		+7.8
21 高知オーガニック・エコ農業推進協議会	+1		+8
22 Organic山都	+2		+1
23 宮崎県有機農業連絡協議会		+6	+16.3
24 かごしま有機農業推進協議会			+0.3
合計	+39	+10	+59.05

【供給拡大型】 国内外の市場ニーズに応じた有機農産物の安定供給体制構築に向け、生産・出荷量の拡大を図る。

	有機JAS認証面積(ha)	有機JAS農産物出荷量(t)
1 北海道有機農業推進協議会	+0.5	+5
2 株式会社いかす		小麦+20、大豆+5

1 かわにし有機農業推進協議会（山形県川西町）

協議会の構成員

やまがた有機農業の匠、山形県有機うまいもん研究会、(有)山形川西産直センター、(有)ファーマーズクラブ赤とんぼ、(農)山形おきたま産直センター、たまちゃんクラブ、ときめきセミナー、川西町認定女性農業者、かわにし森のマルシェ、県立置賜農業高等学校、川西町、町内の有機農業者（個人会員）

生産概要（令和3年度）

- 有機農業（うち有機JAS）取組面積：24.62ha（19.86ha）
- 有機農業取組者数：15名
- 栽培品目：水稻、豆類、野菜、雑穀等
- 構成員の主な取引先：町内産直施設、契約販売、ネット直販等

成果（令和3年度）

1.有機農業の拡大

- ・有機農業者数の増加：15名（令和2年度）→ 15名（令和3年度）
- ・有機農業取組面積の拡大：23.67ha（令和2年度）→ 24.62ha（令和3年度）

2.経営の向上

消費者への理解促進に向けた取組により、新たに有機農業へ取組む意向のある農業者の発掘につながり、町内の有機農産物産出額の向上が見込まれている。

- ・有機農産物総出荷量（推定）：71.0トン（令和2年度）→ 73.86トン（令和3年度）

取組のポイント（令和3年度）

■有機栽培技術向上に向け、地元農業高校と連携！

- ・地元農業高校内に研修ほ場を設置し、肥培管理技術（太陽熱消毒の実施による生育調査）に係る**技術講習会**を開催したほか、太陽熱消毒による土壌消毒を定期的の実施している有機農業の先進地を**地元農業高校の生徒と共同で調査**した。

■消費者の理解促進に向けた各種取組を実施！

- ・地元消費者の情報発信を目的に、会員が環境に配慮して育てた有機農産物等を**地元産直施設**で販売した。あわせて、地元ニーズを理解するためのアンケート調査を実施した。
- ・町内の幼児施設等における給食の有機化を推進するため、施設関係の職員やその利用者を主なターゲットとした「**有機農業に関する映画の上映**」や「**意見交換会**」等を実施し、理解促進に努めた。

- ・地元農業高校とも連携！（先進地視察）：上
- ・地元産直接で販売会実施：下



県内外問わず、新たに有機農業をしたい・興味がある方は是非、事務局までご連絡ください！足を運んでください！お待ちしております！

【問い合わせ先】
かわにし有機農業推進協議会
事務局：0238-42-6641

（東北農政局生産部生産技術環境課
022-221-6214）

2 南陽市有機農業推進協議会（山形県南陽市）

協議会の構成員

南陽市農林課、(農)山形おきたま産直センター、山形おきたま農業協同組合南陽地区稲作部会、(株)おきたま興農舎、(有)ファーマーズ・クラブ赤とんぼ、山形県置賜総合支庁農業振興課、山形県置賜総合支庁農業技術普及課、山形おきたま農業協同組合南陽支店

生産概要（令和3年度）

- 取組面積 有機農業取組面積：21.8ha（うち有機JAS取得面積：19.8ha）
- 有機農業者数：19名
- 栽培品目：水稻、にんじん、ねぎ、さといも、しょうが
- 有機農産物の生産量：120トン
- 構成員の主な取引先：生協、米穀店、百貨店、飲食店、直売市等

成果（令和3年度）

1. 有機農業の拡大

- ・有機農業者数の増加：17名（令和2年度）→ 19名（令和3年度）
- ・有機農業取組面積の拡大：20.2ha（令和2年度）→ 21.8ha（令和3年度）

2. 経営の向上

- ・有機農産物の取引先が増加したことで経営の向上が見込まれた。

取組のポイント（令和3年度）

■水稻除草及び野菜に関する技術講習会の開催

有機農業の里としての基盤を確立し新規就農者の増加を図るため、研修ほ場を活用し、水稻の技術講習会を3回、野菜の技術講習会を1回開催。水田乗用除草機による除草をはじめ、紙マルチ田植機の作業実演・指導を行い、新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の栽培技術力の向上につなげた。

■有機米栽培技術のマニュアル作成

本事業で得た調査結果と経験に基づき、有機農業新規就農者、転換者向けに、有機米に係る農作業のポイントをわかりやすく記述した、栽培技術仕様書の作成・配布を行った。

■有機加工品の試作開発

市内飲食店の協力で、前年度に当事業で試作開発した有機米使用純米大吟醸酒の醸造過程でできた酒粕をパウダー化し、料理に手軽に使えるようにした。また、漬物加工を行っている市内障害者支援施設に依頼し、有機栽培野菜を使用した漬物（おみ漬け）の試作開発に取り組んだことで、農福連携を進める一歩となった。

■有機農業のPR動画の制作

平成29年度から実施している有機栽培米を使った米飯給食の際、市内小学校で、有機農業に関するチラシの作成・配布を行うとともに、制作した有機農業に関するPR動画を放映した。



▲紙マルチ田植機の実演・指導



▲有機米使用の酒粕パウダー



長年積み重ねたベテランの知識！新たな技術に取り組む若手のエネルギー！農業体験や田んぼの環境保全効果調査を通した消費者交流活動、学校給食への有機栽培米の供給などに積極的に取り組んでいます。

問い合わせ先
南陽市有機農業推進協議会
0238-40-8310

東北農政局生産部生産技術環境課
022-221-6214